おしりの悩みと健康づくりシンポジウム

潜在患者を含めれば、日本人の約四割が悩んでいる「痔」について学ぶ「おしりの悩みと健康づくりシンポジウム」（神戸新聞社主催）がこのほど、神戸市中央区の神戸新聞松方ホールで開かれた。痔の原因や予防法、治療法などについて三人の専門医が講演。続く「Q&Aコーナー」では、一般の人から寄せられた質問に、専門医が具体的なアドバイスをした。

おしりの悩みと健康づくりについて考えたシンポジウム＝神戸市中央区、神戸新聞松方ホール

放置せず専門医で受診を

おしりの病気と予防法

10カ条を守って予防を

大澤病院院長

大澤和弘さん

おしりの病気の80%を占め、三大疾患といわれるのが「痔核」「裂肛」「痔瘻」。いわゆる「いぼ痔」「切れ痔」「穴痔」だ。私の病院の手術症例では、痔核、痔瘻、裂肛の順で多く、ほかに直腸脱や肛門管がん、肛門良性腫瘍などがある。

痔核とは、排便時にいきむことなどで血流が悪くなってうっ血し、いぼ状の静脈瘤ができた状態を指す。肛門の外にできるのが外痔核、中にできるのが内痔核。内痔核は、たまに出血する程度の1度から、痔核が脱出したままの4度まで四段階に分かれる。そのほかに血栓性外痔核、嵌頓痔核という急性で激しい

狭さくを引き起こすこともある。

最後の痔瘻。肛門と直腸の境界に菌が入って膿がたまる感染症を肛門周囲膿瘍といい、たまった膿が通る道ができてしまうと痔瘻と呼ぶ。排便と関係なく痛みがあり、長く患うとがんを発生することも。痔瘻にも、浅いI型から深いIV型まである。

直腸と膣の間の筋力が弱くなって、直腸が袋状に膨らむことで排便障害をきたす。

こうしたおしりの病気を予防する十カ条は、

一、おしりはいつも清潔にする。

二、長時間、同じ姿勢を続けない。

三、おしりや腰を冷やさない。

アルコールや刺激物は控えめに。

九、長時間のドライブは避ける。

十、医師に気軽に相談する。

肛門から出血したら痔以外に悪性の病気が隠れていることもある。放置せず専門医を受診してほしい。大腸検査や便潜血検査を定期的に受けることも勧めたい。

痔の治療方法—保存的治療から手術治療まで

1983年宮崎医科大学（現宮崎大学）医学部卒。三菱神戸病院外科医長、消化器科科長を経て、2004年から現職。日本大腸肛門病学会評議員、指導医、専門医。

三菱神戸病院消化

橋本可成さん

ムス体位という横向きに寝てもらう姿勢で診る。

存的療法、3度、4度にまで進行していれば手術療

内痔核の保存的療法には、軟こう、坐剤、経口薬などによる薬物療法のほか、冷却した液体を入れた容器「ボスクール」を肛門に挿入し、血行を促進させてうっ血を改善する冷却痔処置がある。

保存療法の次の段階がゴム輪結紮術と硬化療法。ゴム輪結紮術は、結紮用の器具を使って痔核にゴム輪をかけ、徐々に締め付けることで痔核を脱落させる治療法。また、ジオン注射に代表される硬化療法は、痔核

内痔核の外来手術としては、内痔核ゴム輪結紮術と結紮切除術、硬化療法が一般的だ。

一方、外痔核は、主に血栓性外痔核で痛みや出血がある場合は痔核血栓除去術を、痛みがあまり強くない場合は保存的療法で治療していく。

痔瘻の治療は、基本的に手術になる。痔管を切開して開放する切開開放術、括約筋を切断しない括約筋温存手術のほか、入院ができない場合は、痔管をゴム系

裂肛の治療は、急性の場合は保存的治療、みはりいぼ、肛門潰瘍、肛門ポリープの三つがそろった慢性の場合は手術療法をとる。手術には、肛門からメスを入れ、狭くなった内括約筋を切開する内括約筋側方皮下切開術と、肛門の外側の皮膚の一部を移動させる皮膚移動術とがある。

私の病院では肛門専門外来の日を設けている。おしりの悩みがあれば、気軽に受診してほしい。

セミナーQ&A

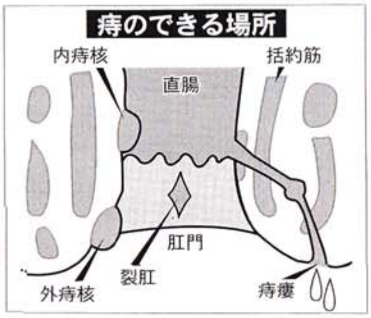
〈回答者〉
大澤和弘さん
橋本可成さん
田淵正人さん
（コーディネーターはフリーアナウンサーの久下景子さん）

久下　産後脱肛を治療したが、最近また変です。（60代・女性）

橋本　女性は出産後、痔核を合併することが往々にしてある。痔核の腫れが引いた後に、痔核の上の皮膚が上がった状態になり、そのまま残ってしまうことも。この方の場合、その時余った皮膚が排便時に引っかかるか、内痔核の再発が考えられる。専門医を受診し、適切な治療を受けるのがいいと思う。

久下　若いころに痔瘻を手術したが、二十年前からいぼ痔が出ている。手術する場合、必要な入院日数、完治までの日数、成功の確率、費用は？　注射でも治せるか。（60代・男性）

大澤　痔瘻を手術した際に括約筋が断裂していることも考えられる。いぼ痔だけの手術ならば、前日に入院して翌日手術する。時間は三十分程度、括約筋を再建する場合でも一時間以内に終わる。



痔のできる場所

専門医はネットで検索／いぼ痔 手術すれば完治

完治までは約一カ月、成功の確率は、やれば必ず良くなる。費用は自己負担三割であれば、手術費、入院費を含めて十万円程度になると思う。安全のため、できれば十日程度入院してもらうのがベスト。

田淵　内痔核の2度から4度までは注射で治療できる。外痔核が大きかったり、肛門の粘膜が垂れ下がった状態であれば、内痔核を注射で治し、外痔核を手術で取る方法もある。

久下　診察は専門医が良い？（60代　女性）

橋本　かかりつけ医で薬をもらう人が多いようだが、それで無理なら専門医へ。インターネットで「日本大腸肛門病学会」で検索すると専門医が分かる。また「内痔核治療法研究会」で調べてもらうと、ALTA（ジオン注）治療ができる病院が分かる。

セカンドオピニオンを／通院だけの治療法も

久下景子アナウンサー

久下　昨年秋に内痔核の手術をしたが、便がもれたり、排便時に痛みがある。同じ病院は嫌だが、再受診すべき？（40代・女性）

田淵　手術後しばらくは痛みが残ることがある。括約筋が弱くなっていると便がもれることも。少し様子を見てもいいが、セカンドオピニオンを受診するといいと思う。

久下　内痔核脱肛で手術した。三カ月前からオリモノシートに薄黄色の液体状の汚れがつく。（60代　女性）

橋本　シートにつく汚れはシャワートイレの際に洗浄した液が肛門から出てきているか、直腸から出る粘液がもれている可能性がある。あるいは内痔核の再発、肛門管がん、直腸がんも考えられる。肛門科で受診を。

久下　いぼ痔を進行させない生活の仕方は？（70代　男性）

大澤　排便を規則正しくし、便秘・下痢をしない、いきみすぎないこと。あとは肛門を清潔にする。これだけでずいぶん違う。

久下　手術ではなく、通院で治す方法は？（五十代　女性）

田淵　内痔核が脱肛する場合、注射で十分治療できる。痔瘻であっても、シートン法という治療法なら通院でも治療できる。

久下　おしりに柔らかいゴム状のものが出ている。治療法は？（女性）

大澤　いぼ痔の脱出、粘膜の脱出、直腸の脱出が考えられる。いぼ痔か粘膜の場合は注射か手術、直腸の場合は手術での治療が必要になります。

久下　脱肛だと思う。どのように治療すればいい？（70代　女性）

大澤　いぼ痔の脱出か直腸脱が考えられる。早い受診を。

久下　痔核手術から十年して再発。輪ゴム法で治癒したが、注射法についても知りたい。（70代　男性）

田淵　輪ゴム法で治癒したなら大きな痔核ではなかったのでは。今は生活習慣に気をつけるだけで大丈夫だと思う。

いぼ痔を注射で治そう

1978年兵庫医科大学卒。2005年に田淵クリニック開設。日本外科学会外科指導医、専門医、日本大腸肛門病学会会員、内痔核治療法研究会会員。

田淵クリニック院長

田淵正人さん

痔核、いわゆるいぼ痔は注射で治せる。ALTA（ジオン注）治療という方法だ。

痔核には内痔核と外痔核があり、内痔核治療には保存的治療、手術療法、その中間の低侵襲性観血治療があるが、ALTAなら手術療法にそん色ない治療ができる。中国で開発され、日本では二〇〇五年三月に保険が適用されるようになった。

ALTAとは、硫酸アルミニウムカリウム、タンニン酸注射液の頭文字。痔核の血流を遮断し、止血効果と痔核の縮小効果で痔核の脱出を消失させる。画期的な治療法といえる。ただ、人工透析を受けている高度な腎臓機能障害がある人、妊娠中や授乳中の女性は、この治療を受けられない。

ALTA治療の注意点は、痔核の状態を肛門鏡を使って十分に観察し、専用肛門鏡を使用した四段階注射法を順守すること。事前の食事制限はなく、前処置も浣腸作用のある坐薬程度。局所麻酔で、手術に準じて行う。治療自体は二十分程度で、一時間ほど安静にすれば帰ってもらえる。

内痔核一カ所に四段階で注射するが、注射自体は痛くない。注射後は、早い時期に痔核の血液量が減って出血や脱出がなくなり、二、三カ月で消失していく。

注射をしてから一日から三日後に一度診察。基本的に二日後から仕事をしてもらって構わない。一カ月間は週一回診察し経過を見ていく。

この治療の利点は、傷がないので出血や痛みがほとんどないこと、施設によるが外来処置、もしくは短期入院で終わること、社会復帰が早く、費用が高くないこと。逆に短所は、外痔核成分が大きいと外痔核が残る場合もあること、肛門ポリープがあれば切除する必要があること、再発については切除術に比べてそん色はないが、症例によっては若干劣る印象があること、外痔核には禁忌だということだ。ただし、ALTA療法は、内痔核治療法研究会の会員で、講習会を受けた医師しか施術できない。

私のクリニックでは現在、月に三十から三十五例のALTA治療を行っているが、副作用はほとんど認められない。約三十年前から脱肛を患っていた八十代の男性患者さんの場合、内痔核二カ所にALTAを注射。二カ月後には消失し、正常な状態になった。

出血や痛み ほぼ伴わず

■ALTA療法実施施設一覧■

相生市＝相生市民病院▽明石市＝明石回生病院、石井病院、こじま肛門科、諸久山病院▽芦屋市＝なかにしクリニック、前川クリニック▽尼崎市＝尼崎医療生協病院、昭和病院、富永外科・肛門科、にしむら胃腸科外科医院、八田クリニック、藤家クリニック、わたなべクリニック▽淡路市＝東浦平成病院▽伊丹市＝近畿中央病院、市立伊丹病院、たにみつ内科▽加古川市＝田淵クリニック▽川西市＝洪クリニック▽神戸市灘区＝門田外科医院、西病院、はぶクリニック、渡辺クリニック▽同市中央区＝神鋼病院、松田肛門科医院▽同市兵庫区＝川崎病院、小島外科胃腸科、三菱神戸病院▽同市長田区＝公文病院、神戸協同病院▽同市垂水区＝大澤病院、佐野病院▽同市西区＝スタークリニック▽高砂市＝東高砂胃腸外科▽宝塚市＝森外科胃腸科肛門科▽たつの市＝八重垣病院▽西宮市＝小串医院、勝呂クリニック、県立西宮病院、平川クリニック、よねくらクリニック▽姫路市＝山田クリニック▽南あわじ市＝八木病院

※詳細は研究会のHP
（http://www.zinjection.net/）